


2012 年度 AOTS同窓会、WNF、 研修センターの活動報告



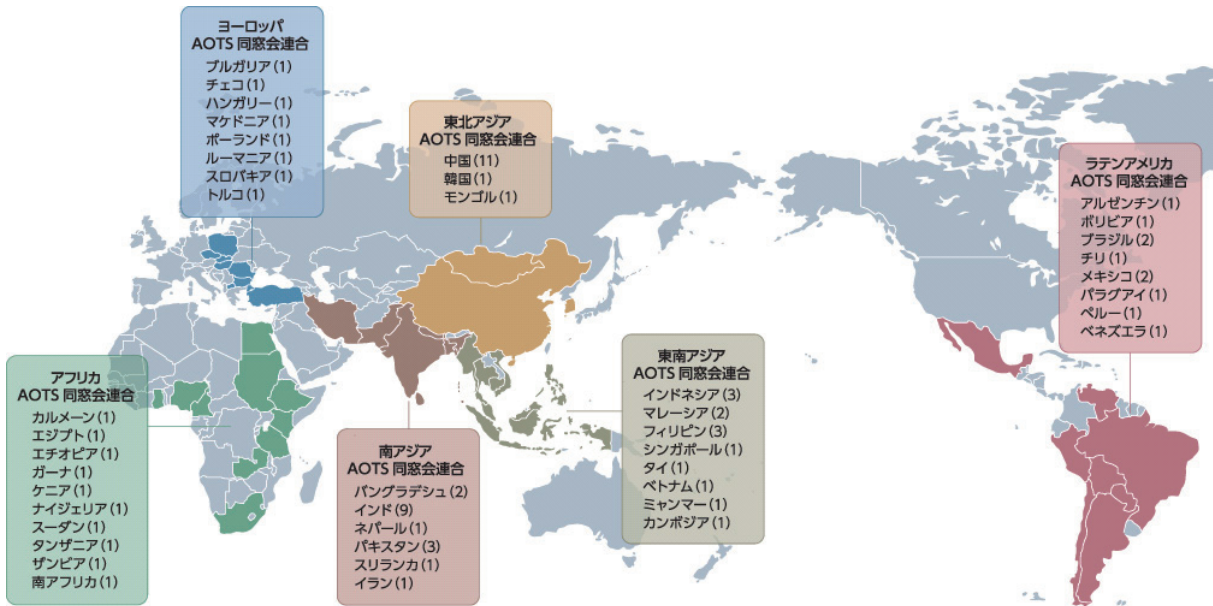


1 AOTS同窓会

「AOTS 同窓会」は、日本で研修を受けて帰国した研修生が AOTS(現 HIDA)研修という共通体験をもとに結束し、世界各地で自主的に組織した NGO です。現在 43 カ国 71 カ所に結成されており、自国の経済産業発展と地域社会への貢献とともに日本ならびに諸外国との友好関係の増進に努めています。

昨今、日本の技術協力に対する海外の期待は高まる一方、HIDA も日本最大の民間技術協力機関としてさらに事業の改善・質的向上を図り、真に相手方のためになる事業を行うため、正確に現地ニーズを把握し、限られた資源を効率よく執行・評価していく必要があります。この意味で、帰国研修生の集まりである AOTS 同窓会は重要な現地パートナーとして HIDA の事業に貴重な役割を果たしています。HIDA は、HIDA の事業目的と合致し、かつ HIDA 事業の普及発展に資する AOTS 同窓会の活動に協力し、帰国研修生による AOTS 同窓会の設立を積極的に支援しています。

<AOTS 同窓会と地域連合>



2012 年度の AOTS 同窓会に関する出来事

1.【FOSAAS 会議の開催(フィリピン同窓会)】

AOTS 同窓会は世界 6 地域でそれぞれ AOTS 同窓会地域連合を結成し、定期的に会合を持つなど、地域間協力活動を盛んに行っています。

2012 年 11 月 15 日と 16 日の 2 日間、フィリピンのマニラにおいて第 10 回 FOSAAS (The Federation of Southeast Asian AOTS Alumni Societies) の会議が行われました。FOSAAS は東南アジアの 8 カ国の 13 同窓会が加盟する AOTS 同窓

会の地域連合で、今回の会議はフィリピン同窓会が幹事を務めました。本会議では、「Working towards One ASEAN Community “ Challenges & Opportunities”」をテーマに掲げ、主に 2015 年の ASEAN 経済共同体 (AEC) 発足に向け、人材育成分野における域内同窓会間の協力についての講演や意見交換を行いました。また、ビジネス面・文化面での交流を活発化させることを確認しました。

2.【BJTIによる研修の実施(ダッカ同窓会)】

2012年10月5日～6日、バングラデシュ・ダッカにおいて、バングラデシュ日本研修センター（Bangladesh-Japan Training Institute 略称：BJTI）によるバングラデシュ繊維産業を対象とした「LEAN Manufacturing 研修」が実施されました。

BJTIは、AOTSダッカ同窓会が「日本的な人材育成や品質管理をバングラデシュの経済成長に活かす」ために2011年5月に設立した研修機関

です。このセミナーは、バングラデシュの主力産業である繊維産業を更に活性化するためにBJTIが独自に企画し、日本の工業用ミシンメーカーに協力を仰ぎ、HIDAを含めた3者によって実現しました。当日は繊維産業界から82名が参加し、セミナーは成功裡に終了しました。

AOTS同窓会との協力事業

【巡回セミナー】

HIDAでは、AOTS同窓会との協力事業の1つとして、HIDA、同窓会、現地団体が経費を負担し、同窓会が主催するセミナーに日本人講師を派遣する『巡回セミナー』を行っています。本セミナーでは、派遣する講師が複数国を巡回して指導にあたるという特徴があります。

2012年度は、エチオピアで行われたアフリカ

地域同窓会連合（AFAAS）の開催に合わせて企業経営をテーマとした巡回セミナーを行いました。また、南アジア地域の同窓会、およびベトナム同窓会を対象とし、ブレークスルー思考を通じた経営管理能力向上支援・企業家育成支援を目的としたセミナーをスリランカならびにベトナムで実施しました。

2012年度の同窓会関係者の叙勲・受賞

【2012年度外務大臣表彰受賞:AOTSブルガリア同窓会 ストエフ氏】

2002年から現在までAOTSブルガリア同窓会長としてAOTS帰国研修生ネットワークの拡大や、ブルガリアにおける日本語と日本文化の普及に尽力されているゲオルギ・ステファノフ・ストエフ氏が日本国政府外務大臣表彰を受賞されました。同氏の長年に亘る日本・ブルガリア両国の相互理解と友好の架け橋となる献身的な活動が高く評価され、今回の受賞となりました。



表彰を受けるストエフ氏(中央)

【2012年度内閣府旭日中綬章受章:AOTSチッタゴン同窓会 イスラム氏】

2012年秋の外国人叙勲として、元AOTS同窓会会長のモハマド・ヌルル・イスラム氏（現：在チッタゴン日本国名誉総領事）が、日本・バングラデシュ間の相互理解促進及び友好親善に寄与された功労を称えられ、旭日中綬章を受章されました。



表彰を受けるイスラム氏(右)



2 WNF (World Network of Friendship)

WNF (World Network of Friendship : 世界友情ネットワーク) は AOTS 同窓会から自主的に提唱された開発途上国の自助努力と相互協力による他に類を見ない南南協力活動です。同窓会員、HIDA 職員及び一般からの寄付を財源とした WNF 基金によって、AOTS 同窓会間の研修生相互交換などを行い、自立的な技術協力活動を推進しています。WNF は技術の移転にとどまらず、文化、社会、経済、環境等の領域で、AOTS 同窓会間の人的交流活動を通じて世界の人々の相互理解を深めるとともに友情を育み、平和で豊かな国際社会を築き上げることを目指しています。HIDA は AOTS 同窓会の委任を受け、この WNF 基金の管理と WNF プログラムの実施に協力しています。

2012 年度 WNF プログラムの特徴 ～アジアからアフリカへ～

【アジアの同窓会によるアフリカの同窓会への南南協力活動】

2012 年度は、計 12 件の WNF プログラムが実施され、同窓会間の研修生の技術的、文化的、社会的な交流が行われました。また、WNF プログラムの多角化として、アジアにおける HIDA の人材育成に関する豊富な実績や経験をアフリカの経済発展に活かす取り組みとして、アジアの同窓会が主催する WNF プログラムにアフリカの同窓会が参加者を派遣する南南協力のプログラムを促進しました。

7 つの主催同窓会が他の同窓会から 65 名の参加者を受け入れて、8 種類の研修プログラムを実施しましたが、そのうちの 6 プログラムで本取り組みが行われ、WNF の主目的ある国際親善や相互理解を促進する国境を越えた開発途上国間での人材育成協力が行われました。

2012 年度 WNF プログラムの事例

【日本の経営研修 (5S と改善)】

2012 年 11 月 23 日～24 日、バングラデシュ・チッタゴンにおいて、5S と改善をテーマとした『第 4 回 WNF セミナー 日本的経営研修』が実施されました。

本研修では、WNF 基金による補助を受け、インドの同窓会関係者が専門家として講師を務めるとともに、パキスタンの同窓会関係者が同研修に参加しました。



「第4回WNFセミナー 日本的経営研修」の研修風景



3 研修センター

2012年度HIDAでは、東京（足立区）、横浜（横浜市金沢区）、関西（大阪市住吉区）、中部（豊田市）の国内4カ所にある研修センターの運営・管理を行い、約4,000名の研修生に対して、各地の研修センターで研修を実施しました。研修センターでは、研修を円滑に執行するため、教室等設備や研修備品の適切な維持管理を通じて、研修生が研修コースに専念するための環境を作り出すとともに、自国や他国の研修生、日本人と交流するための国際交流の機会を提供しています。

また、遠い母国を離れてこれらの研修に参加する研修生が生活する宿泊施設として、慣れない国（日本）で暮らす研修生の宗教や食事、生活習慣などの違いによる負担を軽減し、彼らが快適に過ごせるよう、研修生にとってもう1つの我が家、『Home Away From Home』としての役割を担っています。

日本と海外の産業人材交流の場の提供

【水ビジネス交流会（関西研修センター）】

2012年11月21日、HIDA関西研修センター(KKC)にて、管理研修コースの参加者と日本の企業・団体とのビジネス交流会が行われました。これは、「アジア産業排水処理・施設管理研修コース」(PAWW)の実施に合わせて大阪・アジア地域プロモーション事業推進協議会（大阪府・大阪市・大阪商工会議所・大阪産業振興機構・大阪国際経済振興センター）とKKCが共同で主催したもので、排水処理技術をテーマとする交流会でした。

参加者はPAWWの研修生として来日したアジア6カ国（インドネシア、ベトナム、スリランカ、タイ、ネパール、バングラデシュ）の産業排水処理に携わる企業・公社等の責任者24人と、優れた水関連技術を有する在阪企業・団体の関係者52人で、アジアの企業が抱える問題・課題の解決に必要な技術についての意見交換とビジネス交流を行いました。

交流会を通じて、のべ104件もの個別交流が行われ、研修生にとっては貴重な情報収集の場に、日本の企業にとってはビジネス展開の足がかりになりました。この中から実際のビジネスに発展するケースが創出されることが期待されます。

HIDAでは、このように地元自治体や経済界と協力しながら、日本と海外の産業人材が交流できる機会を積極的に設け、人材育成の場をビジネス機会創出の契機として有効に活用する取り組みを広げていきます。



廃水処理技術に関するビジネス交流会
(関西研修センターにて)

日本に対する理解の促進

【研修生福利厚生行事（各研修センター）】

様々な国籍の研修生が生活する研修センターは、貴重な国際交流の場となっており、食堂やロビーでは日々研修生同士が交流を深めています。また、研修センター主催の研修生福利厚生行事では、年末年始の餅つきや初詣、盆踊り、七夕・節分・節句に関する行事、着物の着付けなど研修生が日本の文化や伝統に対する理解を深めるためのイベントを数多く行いました。



餅つき行事に参加する研修生



研修センターで行なわれた盆踊りに参加する研修生



日本で初詣をする研修生

地域社会の異文化理解促進

【地域社会との交流（各研修センター）】

各研修センターでは研修生の福利厚生行事を地域の町内会やボランティアの方々と共に実施するなど、地域社会との交流も活発に行っています。

地域住民と研修生の親睦イベントでは、研修生が自国の文化紹介を行い、地域の方々が彼らを知る貴

重な機会にもなっています。また、近隣の小・中学校との交流や、近隣の大学からのインターンシップの受入などを通じて、HIDAが行う国際協力への理解を深めてもらう取り組みを行いました。